

実践研修報告

宮古医療圏

D班

チーム名：食いしん坊

担当	氏名	職種
リーダー	松井	診療放射線技師
サブリーダー	坂本	臨床工学技士
クロノロ	河内	事務職
EMIS	遠藤	薬剤師
資材管理	関	理学療法士
記録	高山	管理栄養士
通信	田畑	看護師



事前戦略としての情報収集

発災3日目に岩手県宮古市宮古保健所へ7名のロジステックスが派遣決定

C班(6名)と目的地まで同行が決定され、情報共有を図る

＜8月24日午後時点での本部へ確認情報収集＞

- 交通状況: 一般道を使用 * 国道106号線「ホーマック宮古店～宮古駅」通行止め
- 被災状況: **不明**
- 通信状況: 固定・携帯電話不通
- 先発隊・関連団体(消防・自衛隊)の有無: 医療コーディネータ1名のみ
- 被災地のライフライン状況: **不明**
- 保健所の指揮官名: **不明**
- 災害拠点病院: 県立宮古病院(EMISにて確認)
- 災害病院数: 6病院(EMISにて確認)
- 被災病院のライフライン: **不明**
- 患者搬送の必要性: **不明**

現地到着後、宮古保健所に確認

1.ロジスティクスの基礎

①派遣目的地までの円滑な到達

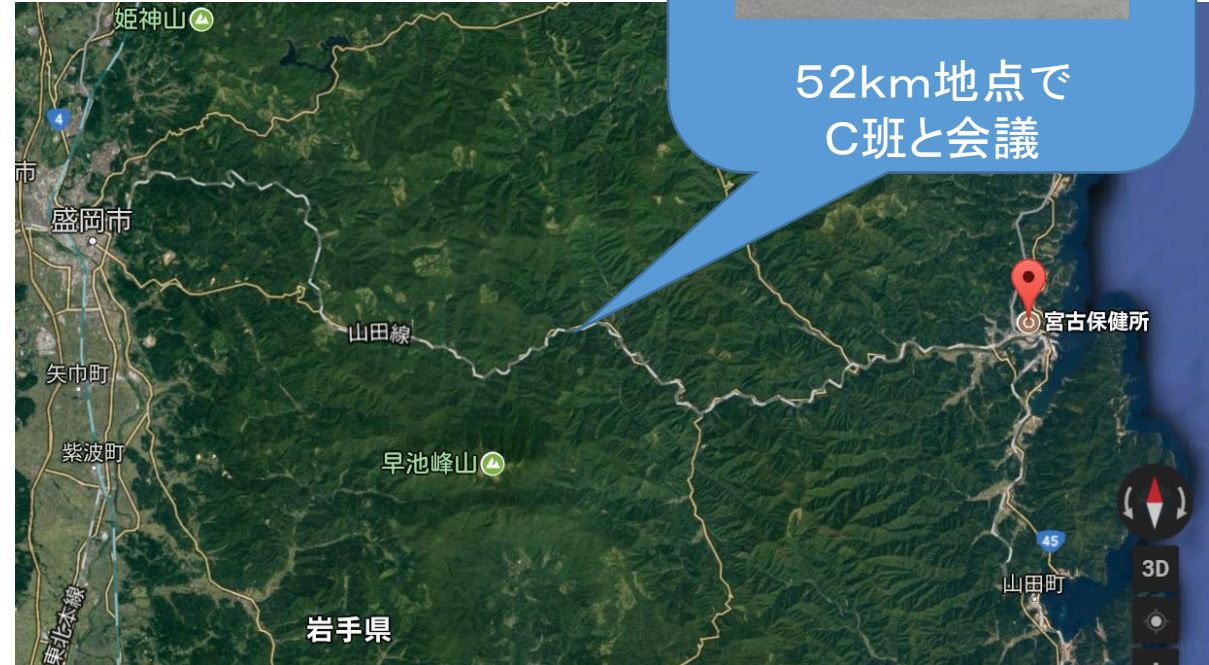
- 発災3日目に岩手県宮古市宮古保健所へ7名のロジステックスが派遣決定
- 1BOX・VANの2台にて出発
- 緊急通行車両確認標章取得
- 全行程一般道にて現地入り



- 距離: 94.5km
- 所要時間: 2時間41分

②住の確保

- 県立宮古病院会議室2階



2.拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

②情報伝達手段の構築および通信(コミュニケーション)



衛星電話の設置(インマルサット)

- 現地到着後本部へ連絡
- 設置も通話も問題なく施行できた
トランシーバ
- 本部と院外衛星電話班との連絡も問題なくコミュニケーションが図れた
- 設置も通話も問題なく施行できた

本部の設営

○レイアウトは、電源の位置や作業性を考慮し大枠を作り、
順次必要箇所に細かい決まり事を作っていた。

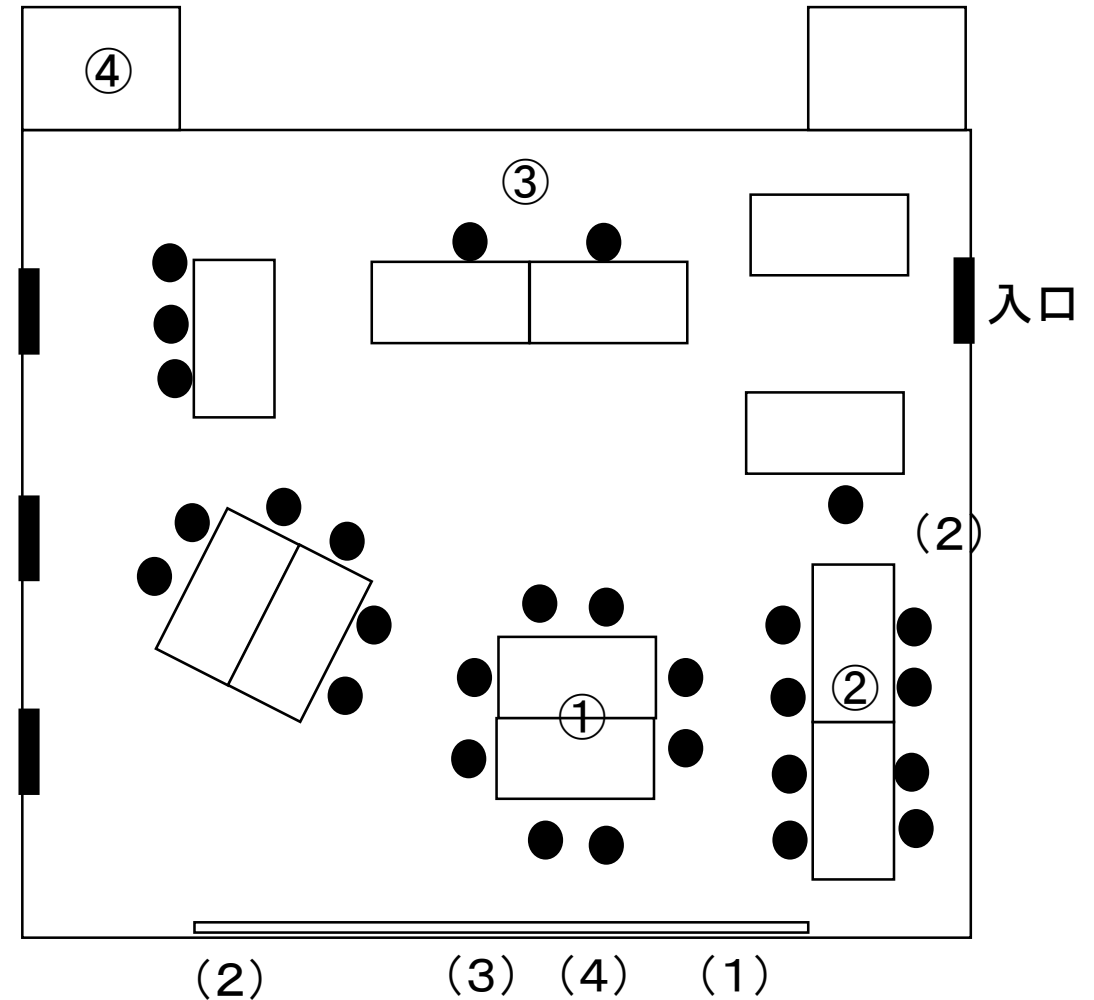
- ・県立宮古病院2F会議室を借用できた。
- ・病院事務へ確認、室内飲食可。

1、衛星電話、各作業場所配置の確認

- ①作業、MTスペース
- ②通信スペース
- ③生活スペース
- ④トイレ

2、資料貼付け(情報共有)

- (1)クロノロ
- (2)組織図・コンタクトシート
- (3)救護所別情報
- (4)ToDoリスト など



2.拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

①県立宮古病院本部設置



①拠点でのカウンターパートとのコミュニケーション 県立宮古病院は「救急医療科長」藤 社先生より

- O2ボンベ
- 重油
- 水

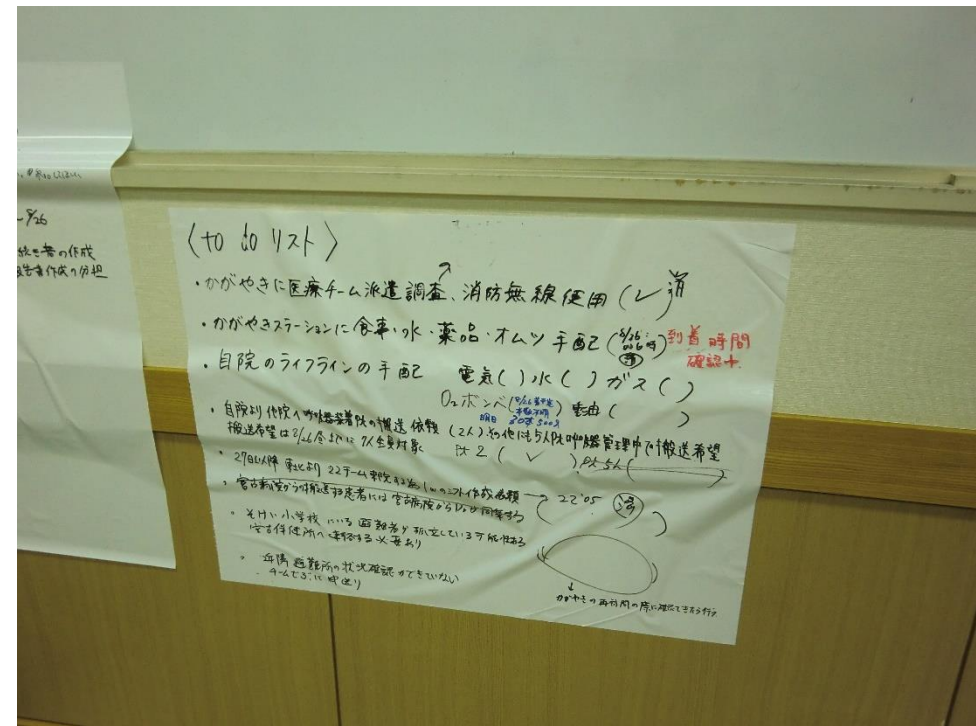
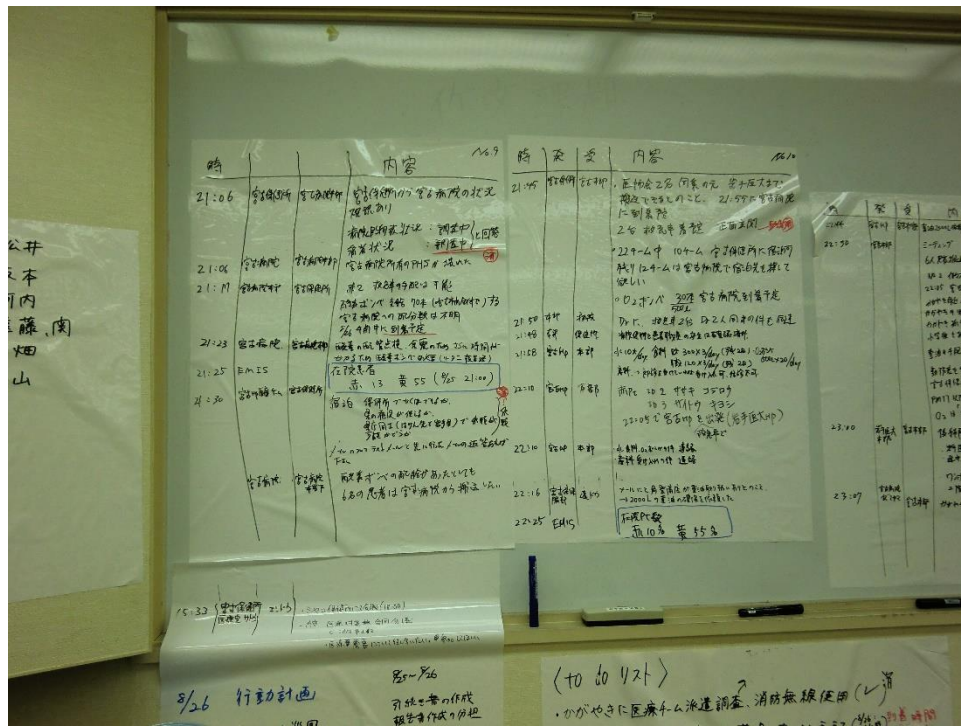
調達依頼

全ての項目に対処できた

2. 拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

③ 情報の集約と活用

- 本部内クロノロ、本部内ミーティング、他機関・他組織への依頼事項の進行具合の確認
- To doリストの作成



勤務表作成

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC
1		8月27日								8月28日								8月29日								8月			
2		日勤				夜勤				日勤				夜勤				日勤				夜勤				日勤			
3		Dr	Ns	Ph	Lo	Dr	Ns	Ph	Lo	Dr	Ns	Ph	Lo	Dr	Ns	Ph	Lo	Dr	Ns	Ph	Lo	Dr	Ns	Ph	Lo	Dr	Ns	Ph	Lo
4	山形県立中央病院①（消化器内科）					1	2	1	1					1	2	1	1					1	2	1	1				
5	山形県立中央病院②（循環器内科）																					1	2	1	1				
6	日本海総合病院①（泌尿器科）	1	2	1	1					1	2	1	1					1	2	1	1								
7	日本海総合病院②（救急科）																	1	2	1	1					1	2	1	1
8	山形県立新庄病院（耳鼻咽喉科、外科）					2	2	1	1					2	2	1	1					2	2	1	1				
9	山形大学付属病院（循環器内科）																												
10	山形県医師会①（総合内科、皮膚科）																												
11	山形県医師会②（総合内科、整形外科）																												
12	山形県河北病院（呼吸器内科）																	1	2	0	2					1	2	0	2
13	鶴岡市立荘内病院（整形外科）																												
14	公立置賜総合病院（循環器内科）																												
15	秋田大学付属病院（救急科）																					1	2	1	1				
16	秋田赤十字病院①（整形外科）	1	2	1	2					1	2	1	2					1	2	1	2					1	2	1	2
17	秋田赤十字病院②（呼吸器内科）																									1	2	1	2
18	秋田厚生医療センター（産婦人科）						2	1	1						2	1	1						2	1	1				
19	秋田県立脳血管研究センター（脳外科）	1	2	1	1					1	2	1	1					1	2	1	1								
20	かづの厚生病院（小児科）																									1	2	1	1
21	大館市立総合病院（消化器内科）																												
22	平鹿総合病院（小児科）	1	3	0	2					1	3	0	2					1	3	0	2								
23	秋田県医師会①（総合内科、眼科）																												
24	秋田県医師会②（耳鼻咽喉科、小児科）																												
25	由利組合総合病院（呼吸器内科）	1	2	0	2					1	2	0	2					1	2	0	2								
26	合計	5	11	3	8	3	6	3	3	5	11	3	8	3	6	3	3	7	15	4	11	5	10	5	5	5	10	4	8

- 8月27日より山形・秋田より派遣される22チーム分
- 約半日程度人員を拘束された

3. 多職種間の連携

② 多組織間の協働方法の検討

担当	氏名	職種
クロノロ	遠藤	薬剤師
	河内	事務職
サブリーダー	坂本	臨床工学技士
資材管理	関	理学療法士
	高山	管理栄養士
	田畑	看護師
リーダー	松井	診療放射線技師



- 食事管理(管理栄養士)
- 自動車整備(臨床工学技士)
- 土地勘を生かし交通ナビゲーションをした(理学療法士)
- 訪問看護における患者情報取得(看護師)
- 本部開設まで野外で衛星電話を保守した(薬剤師)
- チーム全体を大きな体で受け止めたリーダー(診療放射線技師)

CSCAにおける評価

C: Command & Control	各問題に対応する担当者の 分担ができなかった
S: Safety	出発前の車両点検確認できなかった
C: Communication	C: Commandに対する情報連携ができ なかった
A: Assessment	to doリスト作成により施行できた

